

地方だより

盛岡測候所

地図を開いて見る迄もなく、岩手県は日本で一番大きな県で、その総面積15,235平方軒は、実に四国の17,760平方軒に匹敵するものであります。然もその真中を南北に、長さと流域の大きさでも本邦屈指の北上川が流れておりますが、この北上川が、昭和22年のキャスリン台風、翌23年のアイオン台風等、相次ぐ台風の襲来で、あの空前の大水害を引起した事は未だ記憶に新な事であります。

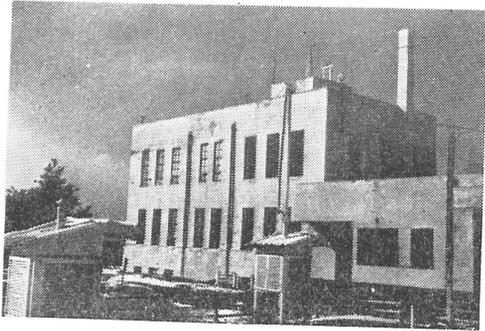


写真1 盛岡測候所全景

これが発端となって多目的五大ダム建設の構想が出来、その中田瀬・石淵の両ダムはすでに完成して機能を發揮しております。ここに盛岡測候所は時流の要望する「水理気象」と四つに組んで新なる任務を与えられて来たわけであります。盛岡測候所は県都盛岡市の東端海拔155米の山王山頂にあり、大正12年の建立は、鉄筋コンクリートの本建築、その美しい容姿と共に30余年の歴史を伝えつつ、一年々業務の発展充実をしております。管下の広い県内には、北は好摩・雫石に、南は田瀬・石淵・衣川に、そして県南第一の都市一ノ関に、それぞれ気象通報所が設けられ、ここでは一日一回の気象観測と毎時雨量観測を行っており、各通報所にはFM又はAMによる無線通信設備を持って盛岡測候所との間に通報を行い、特に一ノ関気象通報所では盛岡と仙台管区気象台の間の無線通信系の中継所としても重要な役目を果たしております。又各地方の民生協力にも努力を払っていることはいうまでもありません。県北の北福岡・岩洞・松尾・南畑及び県南の北上山系の遠野の5カ所には総合気候観測所。又最も歴史の古い区内観測所は36カ所、更に自記雨量観測所は34カ所と観測網が張りめぐらされ、山岳には23カ所に長期自記雨量計を設置し、岩手山・早池峯山・国見岳・駒カ岳及び焼石岳にはロボット雨量計を設置しております。

さて、盛岡測候所で雨量計算が行われ、又仙台管区気

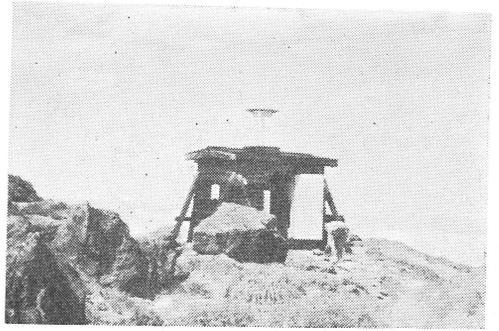


写真2 若畑雨量観測所

象台からも雨量予報が通報されて来ると約24時間後の雨量予報が発表されます。これによって水理情報が生まれ、各通報所には電波が発射されて情報は迅速に通報されます。田瀬・石淵の通報所では直接ダム管理所へ資料を提供する事によってダムコントロールに、又その他の通報所では民生協力や資料の収集に大活躍を始めます。一方盛岡測候所からは別に気象注意報が出され、各種報道機関や電力会社、警察本部、鉄道、建設省工事々務所等、すべて直通電話で通報され、先に述べた34カ所の雨量観測所には雨量通報開始の電報が送られます。雨が降り始めるとこれ等の観測所からは一時間毎の雨量が、通報所からは無線により、その他の観測所からは電報や電話によって刻々と送られて来ます。通報を受けとった盛岡測候所では遂に毎時の県下の雨量分布図を作成し、あたかもレーダーをのぞく如くに移行行く雨の分布を監視して行くのですが、これは皆わが岩手県をかって経験した様な大惨事から守る為に日夜を分たず続けられている業務であります。又、嵐の恐れのない日でも、職員はルーチン業務以外に、雨量予報の精度の向上の為に研究調査を続け、全国に先がけて開始された水利業務の成果は今後新たに業務を開始する他県への良き教訓となる様常に努力を続けております。(宮手記)



写真3 早池峯山ロボット雨量計